

プレスリリース

深刻化する少子高齢化の現状と課題を認識し 自分たちが未来を創るというマインド醸成のための ワークショップを 3/7 に開催

- 3/7(木)13:30より川崎市立川崎総合科学高校にて、同校科学科2年生全生徒を対象としたワークショップを開催。取材歓迎。
- テーマは、「深刻化する超高齢社会にあって、将来、病が気にならない暮らしを送るために、どんな道具やシステムがあったら良いか?」。一線級で活躍する研究者や看護師とのディスカッションを通して、看民工学（民を看る工学）の重要性を学ぶ。
- 誰もが手軽に身近にいる大事な人をケアすることができる社会の構築を目指す「プロジェクト CHANGE」の意思を引き継ぐ人材の育成が目的。
- 今年4月から施行される「医師の働き方改革」にも関連。
- 2023年度より同校科学科2年生の授業カリキュラムに組入れ。

報道関係者 各位

平素は大変お世話になっております。

文部科学省・科学技術振興機構をオーナーとする「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」川崎拠点（プロジェクト CHANGE：プロジェクトリーダー 一木隆範）は、川崎市立川崎総合科学高校（校長：濱野雄功 先生、所在地：川崎市幸区小向仲野町）にて「超高齢社会」および「未来のケア」をテーマとしたワークショップを後述の要領にて行います。対象は、同校科学科2年生全生徒約40名。プロジェクト CHANGE に参画し、一線級で活躍する研究者およびケア従事者とともに、今後さらに深刻化する少子高齢化から派生する医療の不安を科学の力で解決し、よりよい暮らしにするにはどうしたら良いかについて考えます。

対象となる生徒たちは、昨年7月に拠点運営機関であるナノ医療イノベーションセンター（iCONM）を訪問し、施設見学と進路相談を兼ねた研究者との交流会を行いました。また、12月には、研究者と看護師を講師とした「超高齢社会と看護の現状」について出前授業を同校で行い、それを受けて今回のワークショップでは自らの頭で考え少子高齢化を自分事とするとともに未来を創る自覚を醸成します。

少子高齢化による急性期患者の増加と医療従事者の不足に伴い病床が足りず、治療方針が定まって回復期に入った患者は完治していかなくとも退院し、地域・在宅医療に委ねられます。実際、在院日数（入院する日数）は短縮傾向にありますが、病院と異なり地域・在宅医療では医療従事者が24時間患者の管理・指導・ケアをすることはできません。また、医師・看護師しか使えないケア製品は多く、一般の人々は患者ケアのための知識も

十分ではありません。そこで、誰もが手軽に使える看護ケア製品を創出し、また、ケアについての知識やノウハウを身に着けられる仕組みを構築することで、家族も看護行為ができる社会を構築できればと考えたことがプロジェクト CHANGE の立ち上げに繋がっています。コロナ禍にあって在宅療養が可能だったのは「パルスオキシメーター」という誰もが簡単に血中酸素飽和度を計る道具があったからに他なりません。理工系に進学する生徒が多い川崎市立川崎総合科学高校科学科の生徒たちにも、そのような視点を持って頂きたいと考えております。このことは、今年4月から施行される「医師の働き方改革」にも通じます。是非、取材にお越し頂ければ幸いです。

記

日時：2024年3月7日（木曜日）13:30-15:30

場所：川崎市立川崎総合科学高校（正面玄関ホールに13時集合をお願いします）

http://www.kst-h.ed.jp/kst_hp/access.html

対象：同校科学科2年生（約40名）

出席者：COI-NEXT川崎拠点（プロジェクトCHANGE）に参画する研究者と看護師

取材申込：3/4までに、以下の項目を記したメールにてお申込みください。

- ① 氏名
- ② 所属・媒体名
- ③ 当日連絡の取れる電話番号

E-mail 送付先: iconm-pr@kawasaki-net.ne.jp

公益財団法人川崎市産業振興財団について

産業の空洞化と需要構造の変化に対処する目的で、川崎市の100%出捐により昭和63年に設立されました。市場開拓、研究開発型企業への脱皮、それを支える技術力の養成、人材の育成、市場ニーズの把握等をより高次を実現するため、川崎市産業振興会館の機能を活用し、地域産業情報の交流促進、研究開発機構の創設による技術の高度化と企業交流、研修会等による創造性豊かな人材の育成、展示事業による販路拡大等の事業を推進し、地域経済の活性化に寄与しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成27年4月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）について

大学等が中心となって未来のあるべき社会像（拠点ビジョン）を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラム。JSTの既存の拠点形成型プログラムの1つである、センター・オブ・イノベーション（COI）プロ

グラムがコンセプトとして掲げる「ビジョン主導・バックキャスト型研究開発」を基軸とした制度設計を行ったことから、本プログラムの愛称を「COI-NEXT」ともいいます。知と人材の集積拠点である大学等のイノベーション創造への役割が増している中、これまでの改革により、大学等のガバナンスとイノベーション創出力の強化が図られてきました。今後、「ウイズ/ポストコロナ」の社会像を世界中が模索する中、我が国が、現在そして将来直面する課題を解決し、世界に伍して競争を行うためには、将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを「組織」対「組織」の産学官の共創（産学官共創）により構築することが必要となります。

<https://www.jst.go.jp/pf/platform/outline.html>

プロジェクト CHANGE（COI-NEXT 川崎拠点）について

拠点ビジョンとして「医工看連携が先導するレジリエント健康長寿社会の実現」を掲げ、そのためのターゲットを4つ策定しました。①みまもり技術でどこでもいつでも診断。②長寿メドテックで安全・安心な在宅医療。③老化制御で健康寿命延伸。④長寿イノベーションを加速する社会基盤。そして、これらをターゲットとした研究開発テーマを5つ立ち上げ、革新的な研究開発が進められています。①健康みまもりセンシングシステムの開発。②生体I/O デバイスによる優しい医療介入技術の開発。③老化を診断・治療するスマートナノマシンの開発。④長寿イノベーションの実現に向けた市民啓発と実証フィールド構築。⑤長寿イノベーションの社会実装。血液検査など医療機関に行かなくては受けられない検査や診断をできる限り家庭で、医師・看護師でなくても誰もができるための道具や仕組みを創出し、また、健康寿命を損なう組織や筋肉の老化を抑制することで健康長寿社会の実現を目指します。

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

川崎市立川崎総合科学高校について

工業科の課程5科と理数科の課程1科（科学科）を併せ持つ特色のある川崎市立高等学校です。

工業科の各学科では専門性の高い授業が学べるようになっています。2年次からは資格取得・就職等をめざすエンジニア・クリエイター系、大学・短大・専門学校の進学をめざす進学サポート系、それぞれの進路にあった学習をします。また、体験学習や課題研究を通して判断力・実践力を高めるとともに、時代の変化に主体的に対応できる人間の育成をめざしています。

科学科は川崎・横浜市内公立高校のなかで、最初に設立された理数科の課程です。

理工系難関大学進学を目標に、英語・数学・理科の授業時間を豊富に確保しています。

http://www.kst-h.ed.jp/kst_hp/index.html

2024年2月20日